

こんにちは！ ^{みぶまゆみ}
壬生眞由美です



定数に満たない。無投票が騒がれる中、10月に転職したばかりの私。
花苗作りのナーサリーで汗まみれ・土まみれの日々。今までのいろいろな思いもあり、
迷い悩んだ挙句……。出馬決意。家族の同意は告示日の3日前。
皆さんの税金で、普通の勤め人の主婦が仕事をさせて頂くなら、
せめて顔と名前を知って頂くのは当然。
義母の勧めもあり、美容室で整髪
→写真店で撮影→データ利用で立候補ポスター原稿を自作。
告示前日、杉本印刷さんのオンデマンドサービスへ。2時間で出来上がり！
支援者の皆さんとまとめあげた選挙公報を添えて、立候補書類を選管へ。
告示日、くじで5番を引き当てた。3手に分かれてポスターを全ての掲示板に貼る。

受付番号 =
掲示番号

誰もが思いを語れる
村づくり！

告示日は午後から壬生沢地区を中心に、夕方5時過ぎまで
心強いアドバイスと各所でスピーカーの設置などの支援を
頂きながら、初めての遊説にまわりました。



▲遊説時の写真ではありません。
後日のクラス会での写真です

【経歴】

1959年東京都生まれ。青年海外協力隊に参加。1994年より壬生沢在住。
一級造園施工管理技士・技術士（都市及び地方計画）・樹木医
豊丘村森林整備推進協議会委員、過去には飯田市かごこし子どもの森公園計画審議会委員、三遠南信自動車道山本飯田間 環境及び景観ワーキング委員など



『リニアが村を貫くなんて』 平成 26 年の冬、原稿依頼を受け、豊丘村史学会編集『豊丘村風土記 23 号』に寄稿。

ほんと。リニア問題がなければ、一介のパートタイム労働者、繁忙期は農家の嫁として働き、大学生の娘に仕送り。お財布の中身と今日・明日の献立を心配するのが精いっぱいだった。リニアの情報を集めるに従い、今まであまり気にも留めていなかった世の中の体制への疑問が見えてきた。リニアが貫く村の在り方を、小さい声も拾い上げて、皆で学び、考えていきたい。

活動の中で一番大切にすることは

「誰もが思いを語れる村づくり」

3つの柱を考えています

★リニア新幹線工事は、地域のくらしの安全・安心を第一に。住民の不安を伝え、その解消を求めます。

議員の任期は4年間ですが、この間にリニア建設工事に係る重大な決断は未来の豊丘村民の生命の安全を左右するものです。リニア新幹線建設期成同盟の活動は、車で例えればアクセルです。天災や事故といった自動ブレーキではなく、自ら踏み込むブレーキに足をかけ、慎重で、将来世代の安全を見据えた思いやりのある熟慮と決断を求めています。

★段丘を東西に刻み、天竜川に注ぐ谷川に先人達が切り開いた農地の活用を考えます。

伴野原クッキーの由縁にもありますが、先人たちが生産と居住の拠点としていたのは段丘です。都会人にも魅力的な段丘地区の農地の付加価値を高める。

また、災害時に床下～軒下までの浸水区域でもある下段地域では、垂直避難の拠点など災害時の安全を高める方策を考えます。

★豊丘村のここが好き！この村ならではの幸せの素を皆さまとご一緒に見つけ育てます。

村民の誰もが胸を張って周囲の人にアピールできるよう、まずは、できることから、皆さんと取り組んでまいります。

選挙公報をベースに編集

（議会だより 2019 7月号『議員の顔ぶれ』掲載）

豊丘村は、天竜川を望む西に開けた段丘と背後の豊かな森林に抱かれ、谷川や湧き水に育まれた農村です。

季節の移ろいを知らせてくれる林の木々、田んぼや畑、果樹園が見せる景観は農作業の苦労と愛情が滲み出ています。

そんな豊かな環境に七千人が暮らす村。一人の重みが違う。役場の存在が身近。

そして、**ゆめあるて**で展開する住民グループの活動の幅広いこと！

都会とは違う時間の流れ方と空間が豊丘にはある。

村外からの観光振興と同時に、この村の本来的に備わった、『当たり前』を再確認し、**故郷に誇りを持つこと**。住民が地域に関心を持つことは、自治力のアップにつながる。**他人事ではなく、自分の村ごと**。**誰もが思いを語り、耳を傾け、話し合える**。**早急に結果を求め****るのではなく、プロセスを大事にすることで、問題の本質を共有できる**。

無投票当選の一年生議員で、審議経験回数が僅かですが、様々な角度からの意見と討論は必要だと感じています。議員定数は現状、あるいはもっと多くても良いと思います。

また、村政への**住民参画の方法を工夫することも**併せて必要なことだと思います。

(豊丘村公民館報告 2019 6月号掲載原稿)

6月定例会が閉会すると同時に、議会だよりの構成会議、原稿分担、担当記事の草稿。編集会議での校正×2。

その間、東京で議会だよりの作り方研修に参加しました。

議会の仕事は、行政のチェックと条例の提案、と言われます。

議員一人の力は限られています。行政のチェック一つを取り上げても、行政が作り上げた政策や予算の内容を理解して、疑問点を整理する。隅々まで目を行き届かせるためには、各議員が得意分野でしっかり検証することも必要。

条例の提案については、既存の条例の整理、現状の中で対応できることの検討がまず必要。

それよりもまず、身の回りの問題を、皆さんの生の声を受け取り、行政につなげていか。そのための自分なりの方法を検討中。

一般質問では、日頃の皆さんの思いを、普通の言葉で伝えることに努めました。行政からの回答をもっと引き出し、次につなげられるように更に工夫したいと考えています。(7月22日(月)記す)

